

第61回国民体育大会（のじぎく兵庫国体） 結果報告書 2006.10.28

栃木県テニス協会
総監督 阿久津定之

1. 大会概要

- ・日程 平成18年10月6日(金)～9日(月)
- ・会場 神戸総合運動公園テニスコート（成年男子、少年女子）
しあわせの村テニスコート（成年女子、少年男子）
- ・主催 (財)日本体育協会・文部科学省・兵庫県
(財)日本テニス協会・神戸市

2. 試合方法

- ・競技は、各種別それぞれ3ポイント（単2・複1）とし、その勝敗は獲得したポイント数の多少によって決める。
- ・試合は、各種別とも都道府県対抗のトーナメント方式で行う。
- ・試合はすべて8ゲームズプロセット、セミアドバンテージ方式とする。
- ・試合は1回戦より勝敗決定後に打ち切る。また、同時進行の場合も同様とする。

3. 参加監督・選手

総監督：阿久津定之

1. 少年男子 監督：内村清治 選手：佐々木尚文 鈴木佳太

2. 少年女子 監督：山岸美智明 選手：吉田麻美 横田友見

4. 試合結果

少年男子 1回戦 対 富山県：10月6日(金)

	栃木県	- 1	富山県
S 1	佐々木尚文	6 - 8	田村和也
S 2	鈴木佳太	8 - 4	前田修吾
D	佐々木尚文 鈴木佳太	8 - 4	田村和也 前田修吾

少年男子 2回戦 対 兵庫県：10月6日(日)

	栃木県	0 -	兵庫県
S 1	佐々木尚文	2 - 8	佐野紘一
S 2	鈴木佳太	7 - 9	澁谷竜矢

少年女子 1回戦 対 三重県：10月6日（金）

	栃木県	1 -	三重県
S 1	吉田麻美	8 - 4	中澤亜希
S 2	横田友見	7 - 9	大谷紗代
D	吉田麻美 横田友見	4 - 8	中澤亜希 大谷紗代

5. 所感

少年男子

1回戦の相手は富山県で、シングルス1の佐々木尚文選手の相手は身長が高く、サーブのスピードがあり、ネットプレーが得意な選手でした。初めは、佐々木選手もリターンが入らず苦戦していたが、中盤以降はスピードにもなれ、ラリーになると、佐々木選手のボールが深く、相手のミス誘っていたが、前半リードされたゲームが響き6 - 8で初戦を落としてしまった。続くシングルス2の鈴木佳太選手は初戦のせいか緊張し、2ゲームを落としたが、その後調子を取り戻し、ストロークで相手を揺さぶり8 - 4で快勝した。これで、対戦成績を1勝1敗としダブルス勝負となった。初めて組むペアだっただけに不安はあったが、先にブレイクすると波に乗り8 - 4で勝利し初戦を2 - 1で突破した。

続く2回戦の対戦相手は、第3シードの地元、兵庫県の明石城西高校の選手で苦戦が予想されました。シングルス1の佐々木選手の相手は、今年のインターハイでもシングルスベスト4に入っている佐野紘一選手で、実力のある選手でした。特にストロークはボールが早く、コースも深いところに打ち、佐々木選手もいいラリーをするのだが先にミスしてしまい、なかなかゲームを取る事が出来ませんでした。しかし、サーブの調子はよく、2ゲームキープしたものの後半は、相手もサーブにタイミングが合い2 - 8で敗れてしまった。シングルス2の鈴木佳太選手の相手は、今年のインターハイの2回戦で対戦した相手で、その時は4 - 6で鈴木選手がけいれんのためリタイヤし負けてしまいました。再び同じ場所で対戦することになりました。対戦相手の澁谷選手は、鈴木選手とタイプが同じベースラインプレーヤーで先にブレイクされると、4 - 7とリードされたが、鈴木選手も粘り3ゲームを連取し7 - 7としたが、最後は再びブレイクされ、7 - 9で競り負けてしまい、2回戦敗退となってしまった。

少年女子

初戦の三重県に対し、シングルス1の吉田麻美選手は持ち味のストロークで相手を揺さぶり8 - 4と圧勝し、続く横田友美選手も6 - 4でリードしていたが、後半、追いつかれ逆転され7 - 9で落としてしまいダブルス勝負となった。ダブルスは最後まで波に乗りきれず4 - 8で落とし初戦敗退となってしまった。

6. まとめ

今まで国体は夏季大会と秋季大会に分かれて開催され、テニス競技は秋季大会に開催されていましたが、今年からは同時に開催されることになりました。また、少年男女の種目については、地域ブロックの予選がなくなり、ストレートで参加することが出来る様になりました。成年男女においては、監督・選手を含めて2名しか登録出来なくなり、1人の選手が監督を兼任することになりました。また、大会の開会式は行わず、大会期間も短くなり、これも、経費の削減から大会規模の縮小傾向にあり、誠に残念な事だと思えます。

今回は少年男子が2回戦、少年女子が1回戦で敗れ、男女ともに前年度の成績を上回ることが出来ませんでした。参加した少年男子の鈴木佳太選手は、まだ、高校1年で後2年チャンスがあり、また、女子の横田友見選手も後1年チャンスがあるので、是非、来年以降に期待したいと思います。

さて、大会の全体的な感想ですが、全国のレベルはかなり高く、1, 2回戦は勝ってもベスト8に入るには、かなりハードルが高いということです。そのハードルを越えるには、小中高一貫した強化・指導をしなければ全国で活躍するのは、かなり難しい気がしました。これからは、もっとジュニアの育成をしなければ、少年はもちろん、成年においても全国レベルで活躍するのは無理だと思いますので、ジュニアの育成が今後の課題になると思います。

最後に栃木県テニス協会をはじめ、栃木県体育協会の方々には大変お世話になりました。これからも、上位進出を目指し努力していきたいと思いますので、今後ともご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

以上